千葉経済大附属高等学校作文の傾向と対策

【どんなテーマの作文が出ているか】
1年間に起こった出来事に関する課題文がほとんど。特に子どもにも関係のある出来事が採用されやすい。過去1年間に起こった重大な出来事には目を向けておきたい。ただ、課題文の主張があまりない文章なので、即興でも自由に書きやすくなっている。イメージとしては入学式での校長先生のお話のような文章について、考えたことや思ったことを書いていく。正解はなく文字数が書ければOKというテストだろう。

★実際の出題★
H19　いじめについて、すばらしい瞬間、生きることについての文章
H20　スポーツマンシップ（フェアプレー）についての文章
H21　高校生になったらやってみたいことや心の踊るような憧れがあるか
H22　盲目のピアニスト辻井さんについての文章
H23　チリのサンホセ鉱山での大規模な落盤事故について
H24　震災　絆
H25　大津市のいじめ　みんなちがってみんないい
H26　東京オリンピック決定　スポーツの力
H27　ノーベル平和賞のマララさん　教育を受けられない子ども達について

【形式】
文章を読んで、思ったことを４００字から６００字の間で書く。自由度が高い。

かまなび
学習塾

【書き方】

課題文からキーワードを読み取って、それに基づいた体験、そしてこれからの高校生活に向けての意気込みへとつなげていけばいいだろう。

①キーワード部分をみつける

どうしてもみつからない、決まらないとき

＞＞課題文で「　」≪≫でくくられた部分の文章に注目せよ！

※会話の「　」ではない部分

★キーワード抽出例★

H24

・「絆」というのは、断ちがたい人と人との強い結びつきのことです。（最終行）

H25

・「明朗・真摯・友愛」を校風とする千葉経済大学付属高等学校は、生徒一人ひとりの個性を存分に尊重して、のびやかな学校社会を築いていきます。（2 行目）

・人生というのは同質と異質のはざまでもまれながら、「厚み」のある自分をつくっていく過程（7 行目）

・「みんなちがってみんないい」人とちがうことは、困ったことではなくて、とても楽しいことなのです。（8 行目）

・私たちは≪がんばる生徒≫を惜しみなく心から応援します。生徒一人ひとりが自分の持ち味を存分に発揮して≪大きな絵≫をキャンパスに描き上げていく。

H26

・「お・も・て・な・し」の日本文化（3 行目）

・≪神様はその人に乗り越えられない試練は与えない≫（10 行目）

H27

・「世界中のすべての子どもが、教育を受けることができるように」（4 行目）

・「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、一本のペン」が無学、貧困、テロの世界を変えるのです。（13 行目）

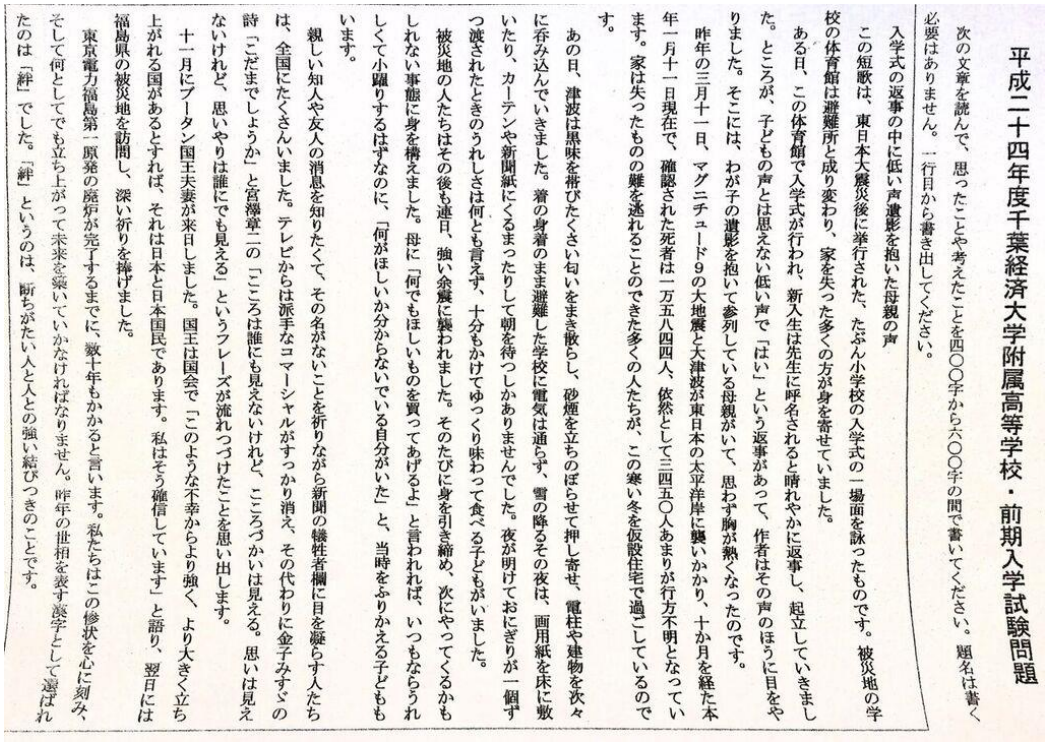
②キーワード部分から、自分の考えたこと、感じたことを、これまでの自らの体験と共に書いていく。最後は高校生活へもつなげたい。

③「これまでのダメな自分」→「キーワードに関連する出来事・体験」→「これからの自分（高校生活に向けて）」という展開で書くと 400 字以上でも書きやすい。書き出す前に構成を考えてメモを作ろう。

【作文例】

（構成メモ）

キーワード抽出：絆
↓
ダメな自分：一人でも生きていける
↓
体験：震災で絆の大切さを知る
↓
これからの自分：高校生活では、新しい絆をつくっていく



平成二十四年度千葉経済大学附属高等学校・前期入学試験問題

次の文章を読んで、思ったことや考えたことを四〇〇字から六〇〇字の間で書いてください。題名は書く必要はありません。一行目から書き出してください。

入学式の返事の中に低い声遺影を抱いた母親の声

この短歌は、東日本大震災後に挙行された、たぶん小学校の入学式の一場面を詠ったものです。被災地の学校の体育館は避難所と成り変わり、家を失った多くの方が身を寄せていました。

ある日、この体育館で入学式が行われ、新入生は先生に呼名されると晴れやかに返事し、起立していきました。ところが、子どもの声とは思えない低い声で「はい」という返事があって、作者はその声のほうに目をやりました。そこには、わが子の遺影を抱いて参列している母親がいて、思わず胸が熱くなったのです。

昨年の三月十一日、マグニチュード9の大地震と大津波が東日本の太平洋岸に襲いかかり、十か月を経た本年一月十一日現在で、確認された死者は一万五八四四人、依然として三四五〇人あまりが行方不明となっています。家は失ったものの難を逃れることのできた多くの人たちが、この寒い冬を仮設住宅で過ごしているのです。

あの日、津波は黒味を帯びたくさい匂いをまき散らし、砂煙を立ちのぼらせて押し寄せ、電柱や建物を次々に呑み込んでいきました。着の身着のまま避難した学校に電気は通らず、雪の降るその夜は、画用紙を床に敷いたり、カーテンや新聞紙にくるまったりして朝を待つしかありませんでした。夜が明けておにぎりが一個ずつ渡されたときのうれしさは何とも言えず、十分もかけてゆっくり味わって食べる子どもがいました。

被災地の人たちはその後も連日、強い余震に襲われました。そのたびに身を引き締め、次にやってくるかもしれない事態に身を構えました。母に「何でもほしいものを買ってあげるよ」と言われれば、いつもならうれしくて小躍りするはずなのに、「何がほしいか分からないでいる自分がいた」と、当時をふりかえる子どももいます。

親しい知人や友人の消息を知りたくて、その名がないことを祈りながら新聞の犠牲者欄に目を凝らす人たちは、全国にたくさんいました。テレビからは派手なコマーシャルがすっかり消え、その代わりに金子みすゞの詩「こだまでしょうか」と宮澤章二の「こころは誰にも見えないけれど、こころづかいは見える。思いは見えないけれど、思いやりは誰にでも見える」というフレーズが流れつづけたことを思い出します。

十一月にブータン国王夫妻が来日しました。国王は国会で「このような不幸からより強く、より大きく立ち上がれる国があるとすれば、それは日本と日本国民であります。私はそう確信しています」と語り、翌日には福島県の被災地を訪問し、深い祈りを捧げました。

東京電力福島第一原発の廃炉が完了するまでに、数十年もかかると言います。私たちはこの惨状を心に刻み、そして何としてでも立ち上がって未来を築いていかなければなりません。昨年の世相を表す漢字として選ばれたのは「絆」でした。「絆」というのは、断ちがたい人と人との強い結びつきのことです。

（作文例）

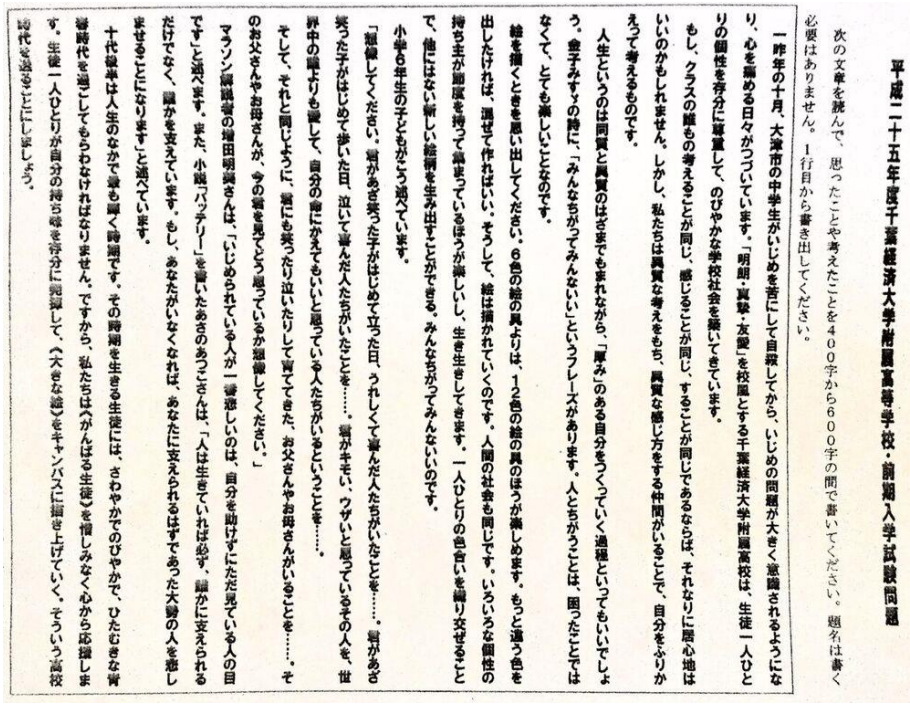
私がこの文章を読んで感じたのは、断ちがたい人と人との強い結びつきである絆の大切さです。

これまで私は、自分一人でも生きていけると考えていました。だから、早く大人になって一人で働いて暮らしたいと思っていました。

ところが、昨年東日本大震災が起こりました。震災が起こったとき、私は友人と一緒でした。これまでに体験したことのないような地震で、「このままどうなってしまうのだろうか」ととても不安になりました。一緒にいた友人も怖かったと思います。しかし、その友人は、不安なときは「一緒に歌おう！」と言って「僕らはみんな生きている」を歌ったのです。部屋の中のものが崩れ落ち、机の下にもぐりこみながら、私たちは一緒に歌ったのです。とても怖かったのですが、一緒に歌うことで一人ではない強い気持ちを保つことができたのを今でも覚えています。

それから私は、一人では生きていけない、人と人との強い結びつきがなければ、辛いとき、不安なときには、生きていけないと考えるようになりました。

これから私は新しい高校生活を迎えます。これまで築いてきた家族・友人との絆だけではなく、高校でも新しい絆をつくることができるように、貴校の校風である「明朗・真摯・友愛」の精神を貫きたいと思います。（524 字）



平成二十五年度千葉経済大学附属高等学校・前期入学試験問題

次の文章を読んで、思ったことや考えたことを４００字から６００字の間で書いてください。題名は書く必要はありません。１行目から書き出してください。

一昨年の十月、大津市の中学生がいじめを苦にして自殺してから、いじめの問題が大きく意識されるようになり、心を痛める日々がつづいています。「明朗・真摯・友愛」を校風とする千葉経済大学附属高校は、生徒一人ひとりの個性を存分に尊重して、のびやかな学校社会を築いてきています。

もし、クラスの誰もの考えることが同じ、感じることが同じ、することが同じであるならば、それなりに居心地はいいのかもしれません。しかし、私たちは異質な考えをもち、異質な感じ方をする仲間がいることで、自分をふりかえって考えるものです。

人生というのは同質と異質のはざまでもまれながら、「厚み」のある自分をつくっていく過程といってもいいでしょう。金子みすゞの詩に、「みんなちがってみんないい」というフレーズがあります。人とちがうことは、困ったことではなくて、とても嬉しいことなのです。

絵を描くときを思い出してください。６色の絵の具よりは、１２色の絵の具のほうが楽しめます。もっと違う色を出したければ、混ぜて作ればいい。そうして、絵は描かれていくのです。人間の社会も同じです。いろいろな個性の持ち主が部屋を持って集まっているほうが楽しいし、生き生きしてきます。一人ひとりの色合いを織り交ぜることで、他にはない新しい絵柄を生み出すことができる。みんなちがってみんないいのです。

小学６年生の子どもがこう述べています。

「知恵してください。皆があざ笑った子がはじめて笑った日、うれしくて喜んだ人たちがいたことを……。皆があざ笑った子がはじめて歩いた日、泣いて喜んだ人たちがいたことを……。皆がキモい、ウザいと思っているその人を、世界中の誰よりも愛して、自分の命にかえてもいいと思っている人たちがいるということを……。

そして、それと同じように、皆にも笑ったり泣いたりして育ててきた、お父さんやお母さんがいることを……。そのお父さんやお母さんが、今の皆を見てどう思っているか想像してください。」

マラソン解説者の増田明美さんは、「いじめられている人が一番悲しいのは、自分を助けずにただ見ている人の目です」と述べます。また、小説「バッテリー」を書いたあさのあつこさんは、「人は生きていれば必ず、誰かに支えられるだけでなく、誰かを支えています。もし、あなたがいなくなれば、あなたに支えられるはずであった大勢の人を悲しませることになります」と述べています。

十代後半は人生のなかで最も輝く時期です。その時期を生きる生徒には、さわやかでのびやかで、ひたむきな青春時代を過ごしてもらわなければなりません。ですから、私たちは《がんばる生徒》を惜しみなく心から応援します。生徒一人ひとりが自分の持ち味を存分に発揮して、《大きな絵》をキャンバスに描き上げていく、そういう高校時代を送ることにしましょう。

（構成メモ）

キーワード抽出：みんなちがってみんないい
↓
ダメな自分：自分と似た人がいい
↓
出来事・体験：自分と違うタイプの子に助けられた
↓
展開：みんなちがうことで社会は安定する
↓
これからの自分：高校生活でもみんなちがってみんないいということを忘れない

（作文例）

私がこの文章を読んで感じたのは、みんなちがうことはいいことだということです。

中学校入学当初、私は「自分に似た人」と仲良くなろうとしていました。自分と似た人であれば話も合うし、一緒にいて楽しいと思ったからです。

確かに、仲良くしているときは問題ありません。しかし、ある日、友人とささいなことで喧嘩になったとき問題が起きました。お互いが似ているので、素直に謝って仲直りができなかったのです。そんなとき仲裁してくれたのが、自分とはタイプの違うクラスメイトでした。それまでは、自分とはかなり違うので苦手だと思っていたその子が仲をとりもってくれたのです。

それから自分と違う人たちがたくさんいることで、社会は安定しているのだということに気が付きました。たとえば、人によって食べ物の好みは違います。それによって、食べ物の取り合いは起きないのです。私はよく兄弟と食べ物のことで喧嘩になります。しかし、チョコレート私嫌いだから、あげるよとくれる友人もいます。みんなちがう方が仲良く暮らせるのです。

ということは、国や民族の違いもあった方が、本来争いは少なくなるはずです。しかし、現在では、宗教の違い、民族の違いで争いが起きています。お互いの違いを尊重できていないからです。

私はこれから高校で、自分とは違うたくさんの友人たちと出会います。みんなちがってみんないいという気持ちを忘れないようにしたいと思います。（592 字）

平成二十七年度千葉経済大学附属高等学校・前期入学試験問題

次の文章を読んで、思ったことや考えたことを四〇〇字から六〇〇字の間で書いてください。題名は書く必要はありません。一行目から書き出してください。

昨年度のノーベル平和賞は、歴代最年少のマララ・ユスフザイさんに贈られました。あの日、バーミンガムの高校で科学の授業を受けていたマララさんは、教室に入って来た先生に「ノーベル平和賞おめでとう」と言われて驚きました。

受賞の理由は「世界中のすべての子どもが、教育を受けることができるように」と訴えて、行動してきていることです。

マララさんはパキスタンのスワート渓谷で生まれ、貧しくもつつましく大事に育てられてきました。しかし、10歳になったとき、過激派のタリバンが入ってきて、女子校は次々に閉鎖され、女子が学校に行くことが禁止されるようになりました。

ペンや教科書を奪うことはできるだろうが、考える力を奪うことは誰にもできない。そのように確信するマララさんでしたが、定期試験を終えて帰るバスに乗り込んできたテロリストに撃たれて重体となりました。かろうじて命は助かり、その後イギリスで治療を受けて回復を遂げました。

16歳の誕生日には国連でスピーチする機会が与えられました。――過激派は本とペンを恐れています。教育の力が怖いのです。そしてまた女性を恐れています。女性の持つ力が怖いのです。「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、一本のペン」が無学、貧困、テロの世界を変えるのです。

スピーチが終わると、マララさんの言葉に共感・共鳴して、国連の会議場にはスタンディング・オベーションが起きました。この日（7月12日）はマララデーとされました。いま世界には小学校に行けない子どもが5700万人いて、そのうち3200万人は女子なのです。

オスロで挙行されたノーベル平和賞の受賞式の式典には、パキスタン・ナイジェリア・シリアから教育を受ける機会を奪われ、辛酸をなめている5名の少女が招待されて、この受賞の意義をかみしめました。

マララさんはインドのカイラシュ・サティアルティさんとの平和賞の受賞です。子どもたちが工場で働かされたり、幼いうちに結婚させられたり、戦争で命を失わされたりして、学校に通えなくさせられている時代を終わりにしましょう。この「終わり」を一緒に始めましょう。――マララさんは堂々と英語で受賞スピーチを締めくくりました。

（構成メモ）

キーワード抽出：世界中のすべての子どもが、教育を受けることができるように
↓
ダメな自分：「勉強したくない」「勉強できることに感謝していない」
↓
体験：マララさんの主張を聞いて、世界の状況を知った
↓
これからの自分：世界を良い方向に変えていくために勉強していく

（作文例）

私は、世界中のすべての子どもが、教育を受けることができるようにという言葉に共感しました。

私は父母から「勉強しなさい」と言われて、「勉強したくない」となってしまっていました。日本では「教育を受けて当たり前」となってしまっているので、教育のありがたみを感じなくなってしまっていたのです。

しかし、考えてみれば、子どもに教育を受けさせるのが当然となったのは、戦後まだそれほど経っていないのです。戦時中は、子どもは勉強したくてもできませんでした。現在世界中の子ども達の中には、勉強したくてもできない子ども達がたくさんいます。

マララさんは、教育が世界を変えると言っています。そのような気持ちで私は今まで学んできたでしょうか。点数を上げるため、入試で合格するためにこれまでは勉強してきました。

これから私は高校で再び新しい勉強が始まります。これまでのテスト・入試のための勉強するのではなくて、将来世界を良い方向に変えていくために勉強するという気持ちで学んでいきたいと考えています。（432字）

☆練習問題☆

平成二六年度千葉経済大学附属高等学校・前期入学試験問題

次の文章を読んで、思ったことや考えたことを四〇〇字から六〇〇字の間で書いてください。題名は書く必要はありません。一行目から書き出してください。

二〇二〇年の夏のオリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決定しました。六年後、皆さんが二一歳になったときです。

IOCの総会で、滝川クリステルさんは「お・も・て・な・し」の日本文化をフランス語でジェスチャーを入れて紹介し、「生涯忘れ得ぬ思い出を皆様にお約束します」とアピールしました。そのプレゼンテーションのトップバッターを務めたのは佐藤真海（まみ）さんで、なめらかな英語で笑顔をたたえたそのスピーチは、会場を感動でつつみました。

陸上選手で水泳もして、チアリーダーでも活躍していた佐藤さんは、一九歳のときに骨肉腫によって右足を失いました。膝下から先を欠いた足は、なかなかまともに見ることができません。二ヵ月経って義足を付けましたが、その「足」は冷たくて硬く、“血が通ってくる”までに長い日数を要しました。

佐藤さんを支えた言葉、それは病気が告知されて落ち込んでいるときに母から贈られた、〈神様はその人に乗り越えられない試練は与えない〉です。気が滅入ってしまうと、この言葉を思い起します。私ならばきっと乗り越えられる。神様はそう信じて「この試練」を与えているんだ。「この試練」を乗り越えれば、見違えるように成長した自分に出会うことができるんだと。

走り幅跳びは人と競うのではなくて、自分の記録を伸ばすスポーツです。目標を決めて一つひとつ乗り越えていくと、自然に記録も伸びていきます。スタートして思い切りよく踏み切って空中に飛び出し、ふわりと長く感じられる瞬間を味わって、できるだけ遠くに着地する。そのわずか数秒間を楽しむアスリート・佐藤真海の誕生です。

私たちには想像できない辛さを感じつづけてきているにちがいないのですが、佐藤さんは明るくさわやかに笑顔を絶やすことなく接してくれます。校庭を一緒に走った子どもは、「命と同じくらい大事な足を失っても、がんばっている真海さんを見て、ぼくは、うじうじしてはいけないなあと思いました」と述べます。

三年前の三月一一日からの六日間、気仙沼に住む家族が無事でいるかどうか、佐藤さんには消息がつかめず、居ても立ってもいられませんでした。家族や家を失った人たちが、「生きていく自信」を取り戻してほしい。そう願って、多くのアスリートたちと何度も被災地を訪れる佐藤さんです。

私はそのとき初めて、スポーツの力を目の当たりにしました。新たな夢と笑顔を育む力。希望をもたらす力。人びとを結びつける力が子どもたちを感動しています。――三年間に味わってきた思いを、IOCでのスピーチで佐藤さんはこのように語りました。

千葉経済大学附属高校は〈がんばる生徒〉を惜しみなく心から応援します。一人ひとりの持ち味を存分に発揮して、さわやかに高校時代を送ってください。

（構成メモ）

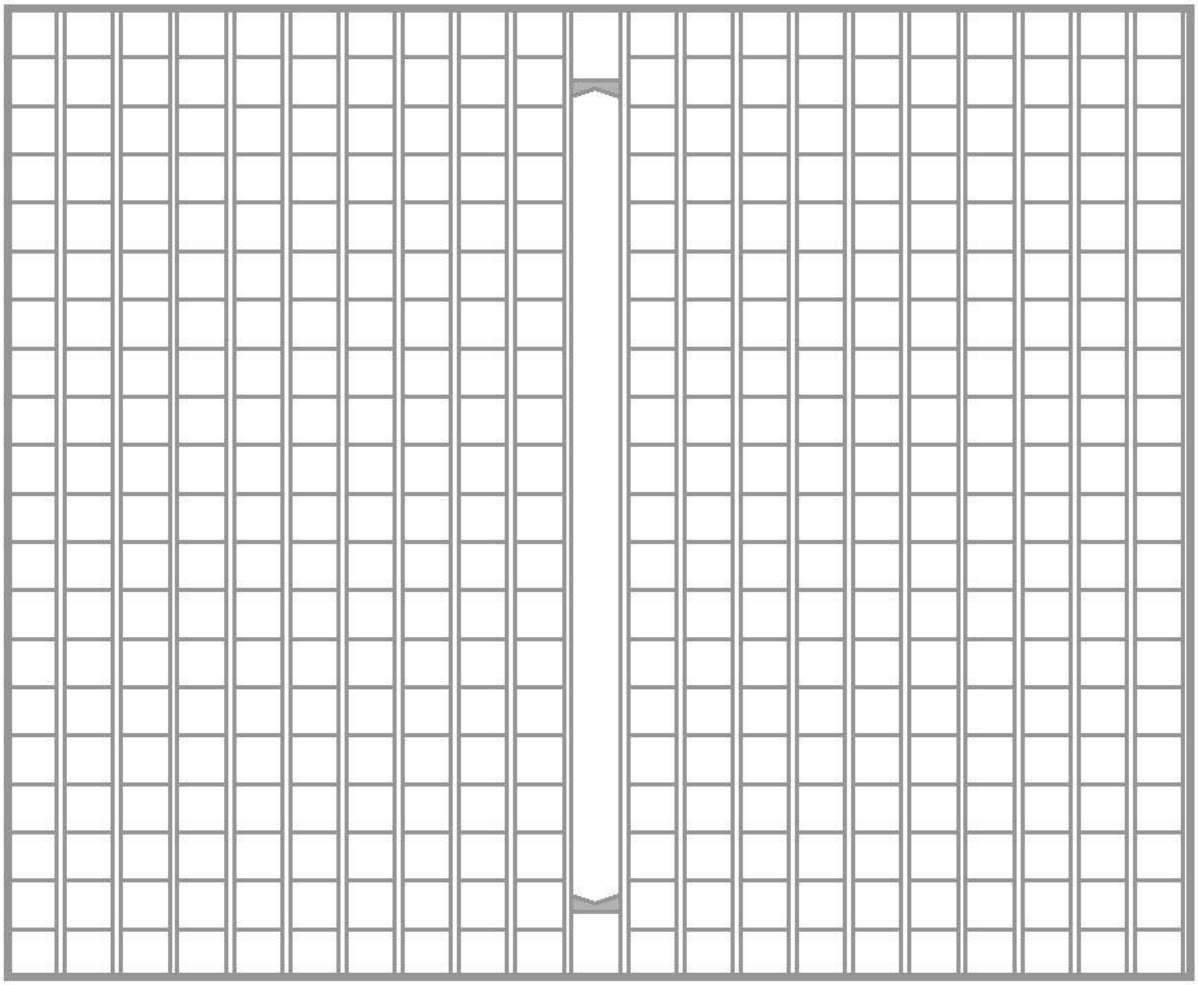
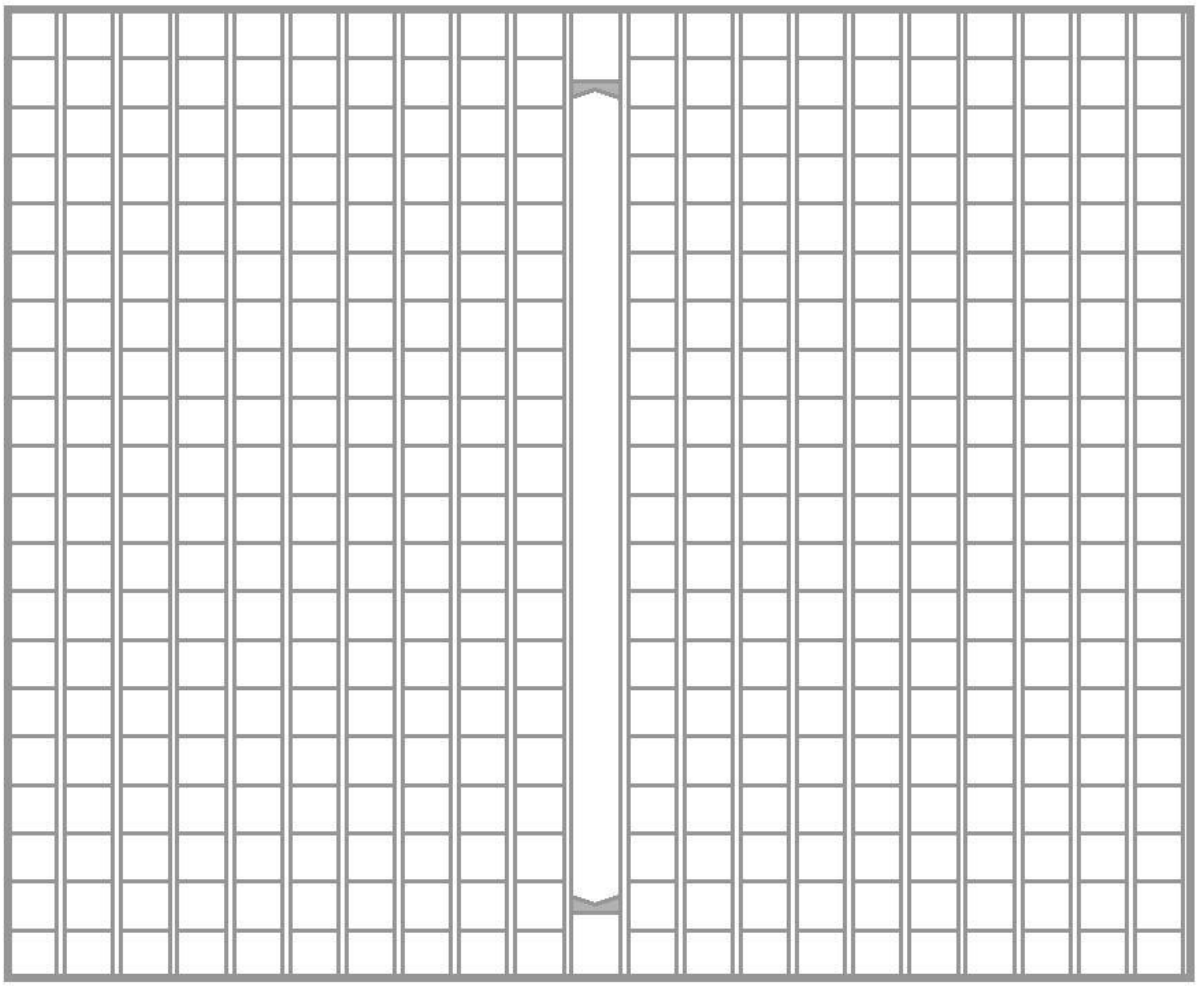
キーワード抽出：神様はその人に乗り越えられない試練は与えない

↓

ダメな自分：

↓

体験：

↓

これからの自分：